

2021年度 上期決算説明資料

対象期間：2021.4.1-9.30

2021年11月11日

1. 2021年度 上期総括

2021年度 上期連結決算のハイライト

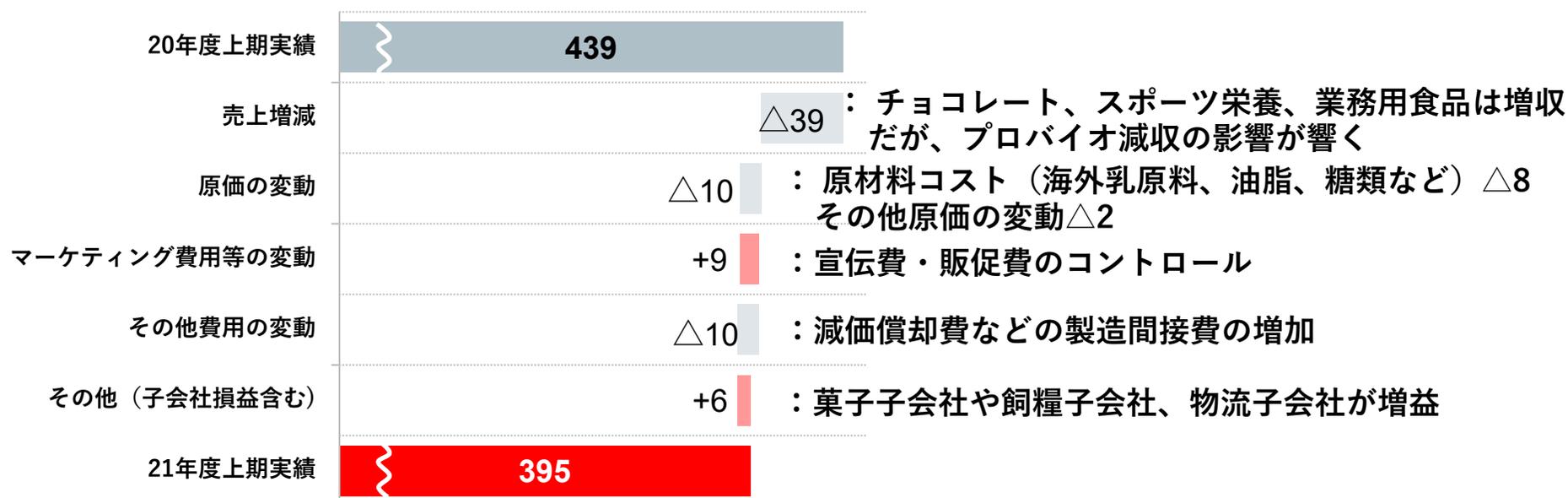
(億円)	20年度 上期実績	21年度 上期実績	21年度		21年度 上期計画 (9/10修正)
			前年同期比	計画比	
売上高	5,849	5,007	△14.4% △842	△0.8% △42	5,050
(参考：売上高)	4,933※	5,007	+1.5% +73	—	—
営業利益	504	503	△0.1% △0	△1.3% △6	510
営業利益率	8.6%	10.1%	+1.4pt	△0.0pt	10.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	287	366	+27.5% +79	+7.8% +26	340
E P S	198.05円	252.54円	+54.49円	+18.22円	234.32円

- 収益認識基準適用の影響を除いたベースの売上高は増収
食品はほぼ横ばい、医薬品は増収となる
- 営業利益は全体では前年同期並み。食品は減益だが医薬品は増益
- 四半期純利益は大幅増益。関係会社株式や投資有価証券の売却により特別利益は増加。特別損失と税金費用は減少した

食品：2021年度 上期 決算概要

(億円)	20年度 上期実績	21年度 上期実績		21年度 上期計画	
		前年同期比	計画比		
売上高	4,965	4,090	△17.6% △875	△0.2% △7	4,098
(参考：売上高)	4,097※	4,090	△0.2% △6	—	—
営業利益	439	395	△9.9% △43	△7.7% △33	429

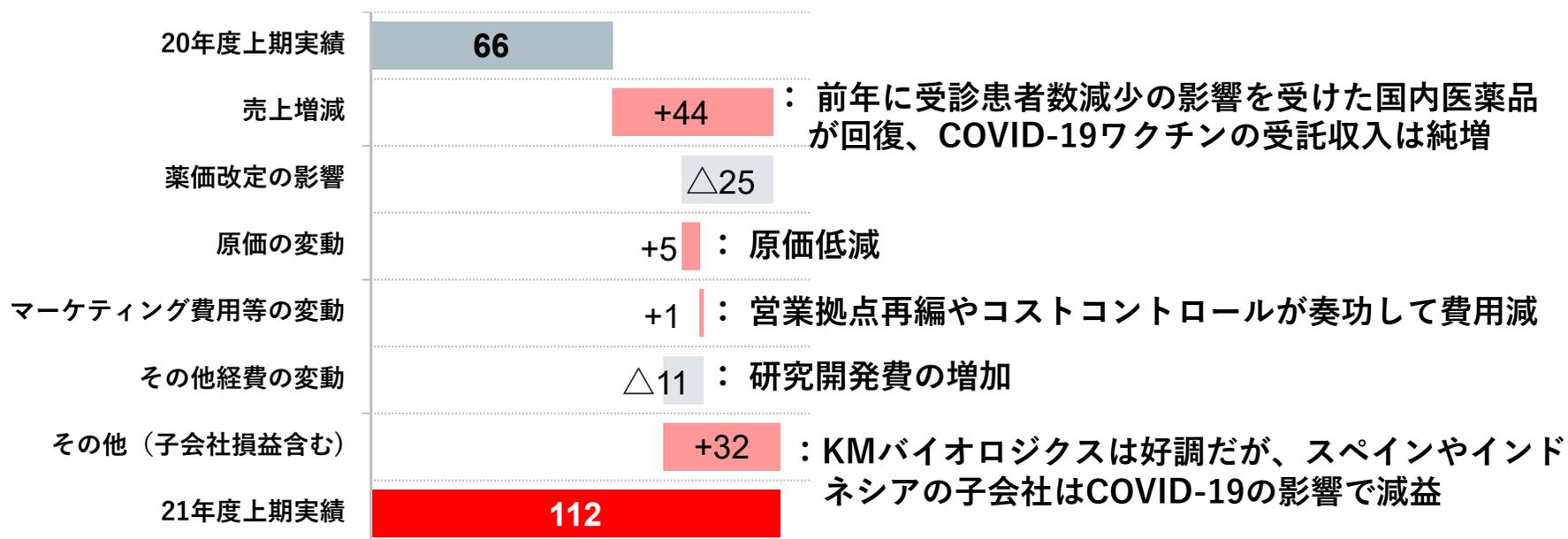
営業利益 増減分析



医薬品：2021年度 上期 決算概要

(億円)	20年度 上期実績	21年度 上期実績		21年度 上期計画	
		前年同期比	計画比		
売上高	891	921	+3.3% +29	△3.6% △33	955
(参考：売上高)	843※	921	+9.2% +77	—	—
営業利益	66	112	+70.6% +46	+32.7% +27	85

営業利益 増減分析



2. 2021年度 下期見通しと 主な事業別概況

2021年度 下期連結見通し

(億円)		20年度 下期実績	21年度 下期計画 (11/9修正)	前年同期比	21年度 下期計画 (9/10修正)
連結	売上高	6,067	5,132	△15.4% △935	5,140
	(参考：売上高)	5,137*	5,132	△0.1% △4	—
	営業利益	556	496	△10.8% △59	550
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	369	533	+44.5% +164	610
食品	売上高	5,030	4,179	△16.9% △851	4,213
	(参考：売上高)	4,167*	4,179	+0.3% +11	—
	営業利益	435	435	△0.1% △0	451
医薬品	売上高	1,045	965	△7.6% △79	940
	(参考：売上高)	977*	965	△1.3% △12	—
	営業利益	124	72	△42.2% △52	100

食品：「栄養ステートメント」を旗印に meiji の独自技術で独自価値の創出を目指す

明治は、“栄養”で何ができるかを、ずっと考え続けます。
これまでも、これからも。

Mind 01 乳、カカオ等の自然素材を生かし、
毎日の健康を支える“栄養”を提供します。

Mind 02 さまざまな『+1（プラスワン）の価値』で、
心を満たす“栄養”を提供します。

Mind 03 “栄養”で、各国・各地域の生活者それぞれの
人生を豊かにするお手伝いをします。

- 「健康にアイデアを」の思想を食品事業に
落とし込んだ「栄養ステートメント」を
6月に策定
- TANPACTシリーズ、ザバスヨーグルト、
飲料タイプのオリゴスマートなど、meiji
ならではの付加価値商品を続々上市
- アクセラレータープログラムや
DXも活用し、将来の成長を担う
新たなビジネスの創出にも着手



ヨーグルト・チーズ事業の概況

(億円)	上期実績		下期計画 (11/9修正)		通期計画 (11/9修正)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
売上高	1,232	△8.2% △110	1,262	△0.2% △2	2,494	△4.3% △112
営業利益	187	△28.6% △74	202	△5.6% △12	389	△18.2% △86

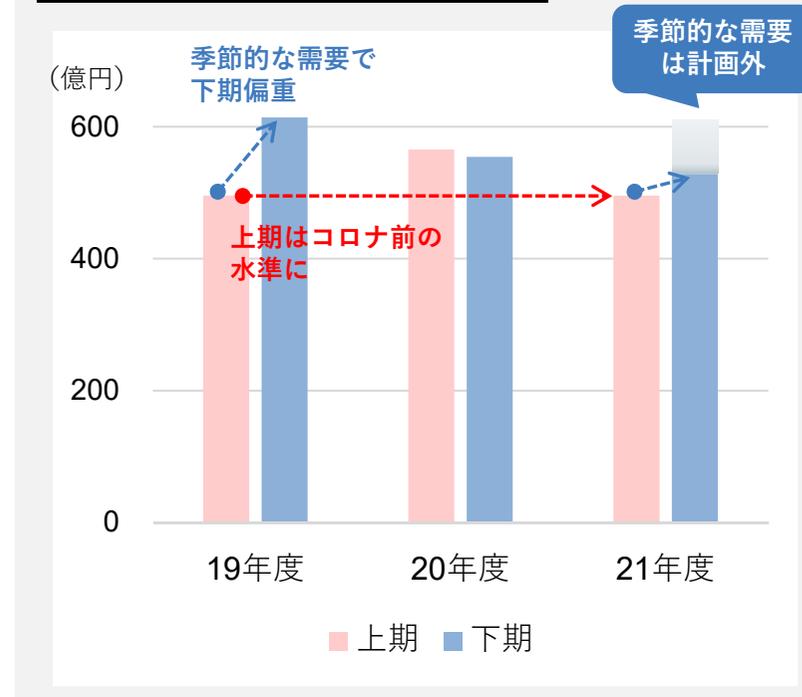
● 売上高

- 巣ごもり消費で大きく伸長した前年の反動で上期は減収。ただし、減収幅は1Qから2Qにかけて改善
- 下期以降は前年の反動による影響が緩和され、本来の安定成長軌道へ

● 営業利益

上期は減収の影響大。下期はプロダクトミックスの悪化と物流費や減価償却費の増加で減益に

プロバイオティクス売上高

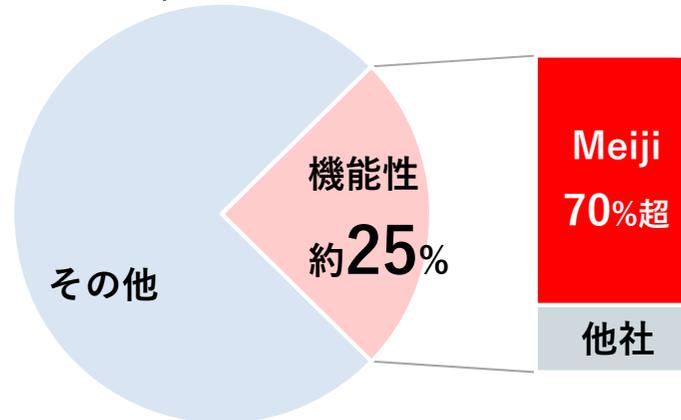


プロバイオティクス、ヨーグルトの成長回復

研究開発力を強みに
既存商品の活性化と新商品の定着・開発で安定成長を目指す

ヨーグルト市場

約4,800億円規模



機能性ヨーグルト市場はプレイヤーが増加しているが、当社は高シェアを維持



- 19年度比では上期はプラスで推移。コアユーザーの増加が安定成長の下支えに
- 下期は季節的な需要を織り込まない前提。体調管理の重要性を訴求するTVCMを継続投入。店頭での情報発信も強化



- LG21乳酸菌の新たなエビデンスを発表（10/11発表）
- 「素肌のミカタ」など新しい商品群は情報発信を強化し、市場定着を目指す
- 新商品の開発にも継続して取り組む

ニュートリション事業の概況

(億円)	上期実績		下期計画 (11/9修正)		通期計画 (11/9修正)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
売上高	629	+5.7% +33	594	+5.3% +29	1,224	+5.5% +63
営業利益	106	+13.6% +12	77	△8.0% △6	183	+3.4% +6

● 売上高

- 上期は、乳幼児ミルクは減収だが、「ザバス」や「ザバスミルク」、流動食が伸び、全体をけん引
- 下期は、前年のハードルが低くなる乳幼児ミルクも含め主力品をさらに伸ばす

● 営業利益

上期は増収効果で増益だが、下期は減益の見通し。原材料コスト増とコロナ影響で遅れていた工場投資による減価償却費増が重石となる

スポーツプロテイン

- 新規メーカーが多数参入しているが、市場も当社も拡大
- 「ザバス」ブランドは機能性と形態のバリエーションを強みに引き続き積極的に拡売



チョコレート・グミ事業の概況

(億円)	上期実績		下期計画 (11/9修正)		通期計画 (11/9修正)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
売上高	501	+5.8% +27	707	+4.5% +30	1,208	+5.1% +58
営業利益	37	+62.5% +14	104	+11.1% +10	142	+21.2% +24

- 売上高
 - 上期は、大袋を含む健康志向チョコが売上成長をけん引。グミも回復傾向
 - チョコレートの最需要期となる下期は、健康情報を継続的に発信して活性化。グミも「噛む効果」を訴求し、コロナ前の水準への回復を目指す
- 営業利益

上期同様に、下期も増収効果で増益の見通し。マーケティング活動は強化するが、費用は適切にコントロール

チョコレート

- 健康志向チョコレート市場の伸びは高く、市場は拡大
- 当社の「チョコレート効果」「オリゴスマート」ともに2桁成長し、市場をけん引
- カカオポリフェノールやフラクトオリゴ糖の訴求を強化し、さらなる売上拡大を目指す



海外事業の概況

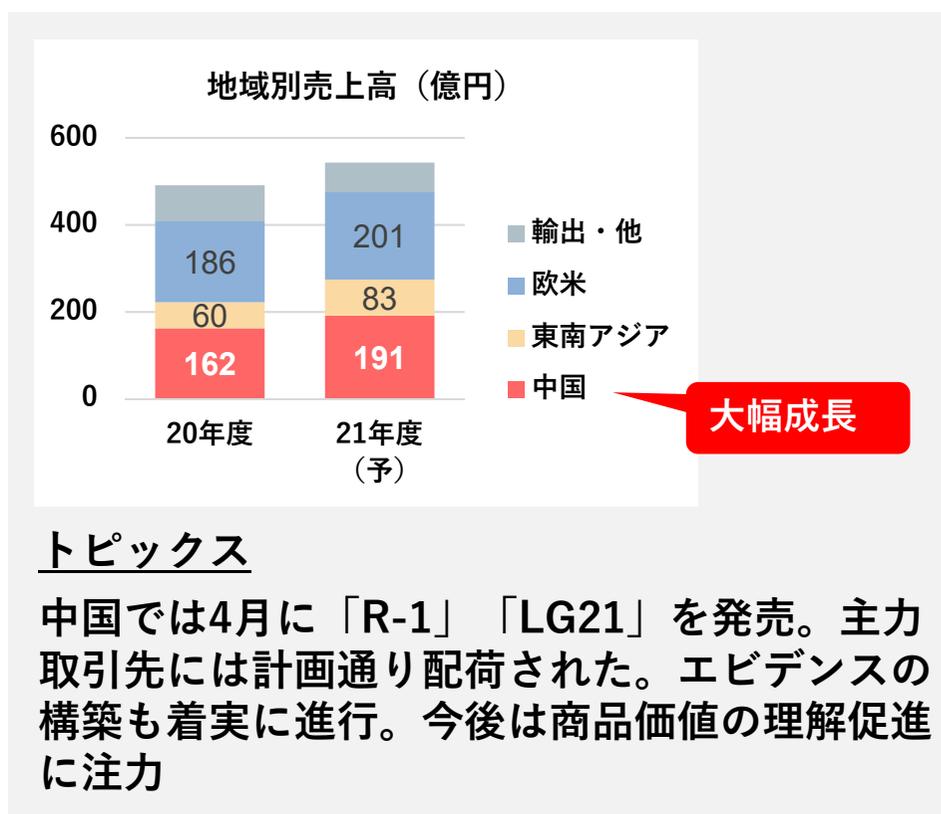
(億円)	上期実績		下期計画 (11/9修正)		通期計画 (11/9修正)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
売上高	268	+16.2% +37	287	+11.4% +29	555	+13.7% +66
営業利益	2	△51.0% △3	5	△13.4% △0	8	△30.9% △3

● 売上高

- 上期は、中国事業が大幅伸長。コロナ影響からの回復に加え、需要の高さも成長をけん引
- 下期も全体としては好調を維持
- 中国事業の投資は計画通り実行。蘇州は新ラインが稼働。新工場も順調に建設進行

● 営業利益

体制強化のためのコスト増により、上期は減益。下期は米国事業での原材料コスト増も加わり、減益に



医薬品：構造改革を着実に推進

強みをもつ感染症領域に経営資源をさらに集中
事業ポートフォリオの再構築に着手

✓ 一部事業の譲渡

- 持分法適用会社のDMバイオ株式を東亜ソシオグループに譲渡（7/27発表）
 - 農薬事業を三井化学アグロ社に譲渡（9/10発表）
- 【通期業績への影響】 特別利益として約395億円を計上見込み

✓ Meiji Seika ファルマとKMバイオリジクスの一体運営

- 研究開発の強化
R&Dステアリング会議を設置。生産性や成功確率の高いテーマに両社の資源を集中
- ワクチン事業の強化（COVID-19不活化ワクチン）
後期臨床試験は2社共同で実施。21年度内には原薬生産体制が整う見込み
安全で有効なワクチンの早期承認を目指す
- 動物薬事業の統合
22年4月に明治アニマルヘルス社を設立。動物薬においても予防から治療までの包括的なソリューション提供を強みに、国内トップクラスを目指す

ヒト用ワクチン事業の概況

(億円)	上期実績		下期計画 (11/9修正)		通期計画 (11/9修正)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
売上高	240	+15.6% +32	196	△21.7% △54	437	△4.8% △22
営業利益	86	+70.2% +35	15	△66.9% △30	102	+5.2% +5

● 売上高

- 上期・下期ともに、COVID-19ワクチン製剤化に関する受託収入が純増。一方、プレパンデミックインフルエンザワクチンの受託製造が今期は無く、マイナス要因に
- 上期は増収。B型肝炎ワクチン「ビームゲン」や四種混合ワクチン「クアトロバック」は減売だが、インフルエンザワクチンの前倒し出荷が寄与
- インフルエンザワクチンの供給量は前年並みの見込み。ただし、上期出荷量が増えたことで、下期は減収要因に

● 営業利益

棚卸評価減の減少や生産効率アップにより通期では増益

インフルエンザワクチン

- 今季の国内総供給量は前年比△20%の見込み
(厚生科学審議会資料より)
- 昨季に大規模流行が無く、集団免疫が形成されていない
- 当社はトップシェア企業として、コロナ禍での接種の重要性を啓発する情報発信を強化

国内医薬品事業の概況

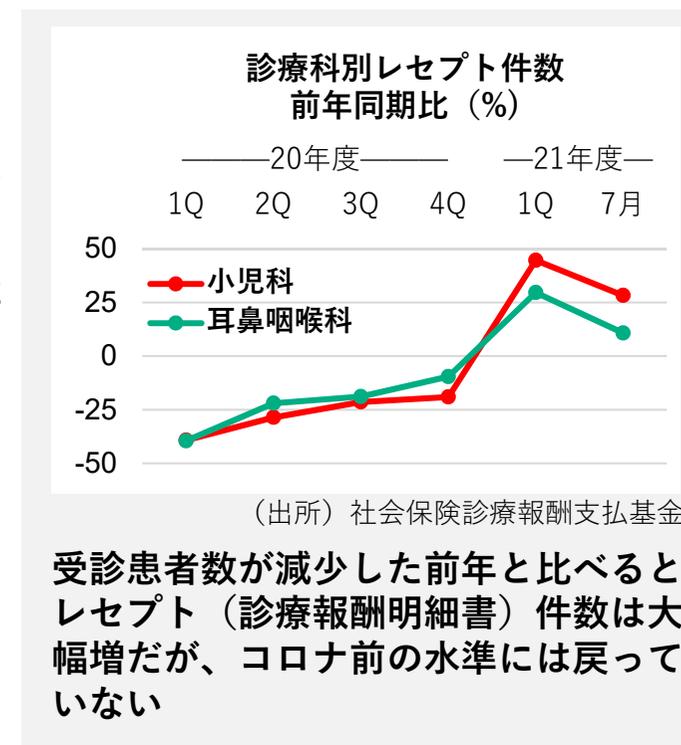
(億円)	上期実績		下期計画 (11/9修正)		通期計画 (11/9修正)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
売上高	452	+9.6% +39	527	+5.3% +26	980	+7.2% +66
営業利益	17	— +21	34	△42.8% △25	52	△7.1% △4

● 売上高

- 上期は増収。主力の抗菌薬は前年反動で大幅に伸長、「シクレスト」「ビラノア」も好調に推移。薬価改定の影響をオフセット
- 下期も主力品を中心に拡大。新規発売品の抗悪性腫瘍剤「ハイヤスタ」などの普及活動を強化
- 上期・下期ともにCOVID-19ワクチンの国内流通に関する受託収入が純増。下期のウェイトが大きい

● 営業利益

開発ステージアップによる研究開発費増などの影響で通期では減益



海外医薬品事業の概況

(億円)	上期実績		下期計画 (11/9修正)		通期計画 (11/9修正)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
売上高	194	△2.2% △4	225	+15.6% +30	420	+6.6% +26
営業利益	12	△43.7% △9	24	+53.9% +8	37	△2.6% △1

- 売上高
 - 上期は減収。CMO/CDMO事業は好調だが、前年にコロナの影響で需要増があったスペインやインドネシアの子会社など海外自販事業が減収
 - 下期も海外自販事業は各国・地域の感染拡大状況に左右されるが、全体では増収計画。CMO/CDMO事業が引き続きけん引役となる
- 営業利益
売上動向に連動し、上期は減益、下期は増益

CMO/CDMO事業の強化

- 世界人口の急速な拡大とともに、主にアジアやアフリカでの医薬品アクセスは社会課題になっており、低価格での製品提供が求められている
- インドの子会社メドライクのCMO/CDMO事業はコロナの影響を受けることなく順調に拡大
- 旺盛な需要に対応すべく、生産能力を拡大予定

3. 2021年度 通期見通し

2021年度 連結計画

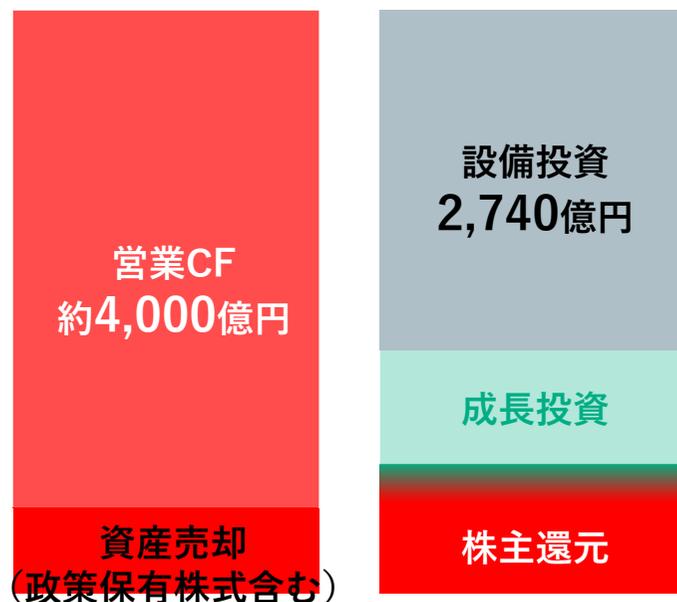
(億円)

	20年度 通期実績	21年度 通期計画 (11/9修正)	前年同期比	21年度 通期計画 (5/18当初)	21年度 通期計画 (9/10修正)
売上高	11,917	10,140	△14.9% △1,777	10,240	10,190
(参考：売上高)	10,071※	10,140	+0.7% +68	—	—
営業利益	1,060	1,000	△5.7% △60	1,075	1,060
営業利益率	8.9%	9.9%	+1.0pt	10.5%	10.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	656	900	+37.1% +243	670	950
EPS	452.52円	620.22円	+167.70円	461.79円	654.73円
1株当たり配当金	160円	160円	—	160円	
配当性向	35.4%	25.8% (35.6%)	△9.6pt	34.6%	
ROE	11.1%	14.0% (10.5%)	+2.9pt	10.5%	
ROIC	10.0%	9.0%	△1.0pt	9.5%	
設備投資額	679	1,093	+61.0% +414	1,214	
営業CF	1,236	1,287	+4.0% +50	1,343	
フリーCF	305	871	+184.9% +565	171	

()内は農薬
事業譲渡の影響
を除いた数
値

キャッシュフローと株主還元

2023中計での資本配分の考え方



- 営業CFの範囲内での成長投資
- M&Aの効果的实施
- 政策保有株式の30%削減（簿価ベース）
- 継続的な増配の実施、配当性向を40%まで段階的に引き上げ
- 最適資本構成の観点から自己株買の実施を検討

● 21年度通期のポイント

資産売却

DMバイオ株式、農薬事業の譲渡により
500億円規模のキャッシュイン

政策保有株式

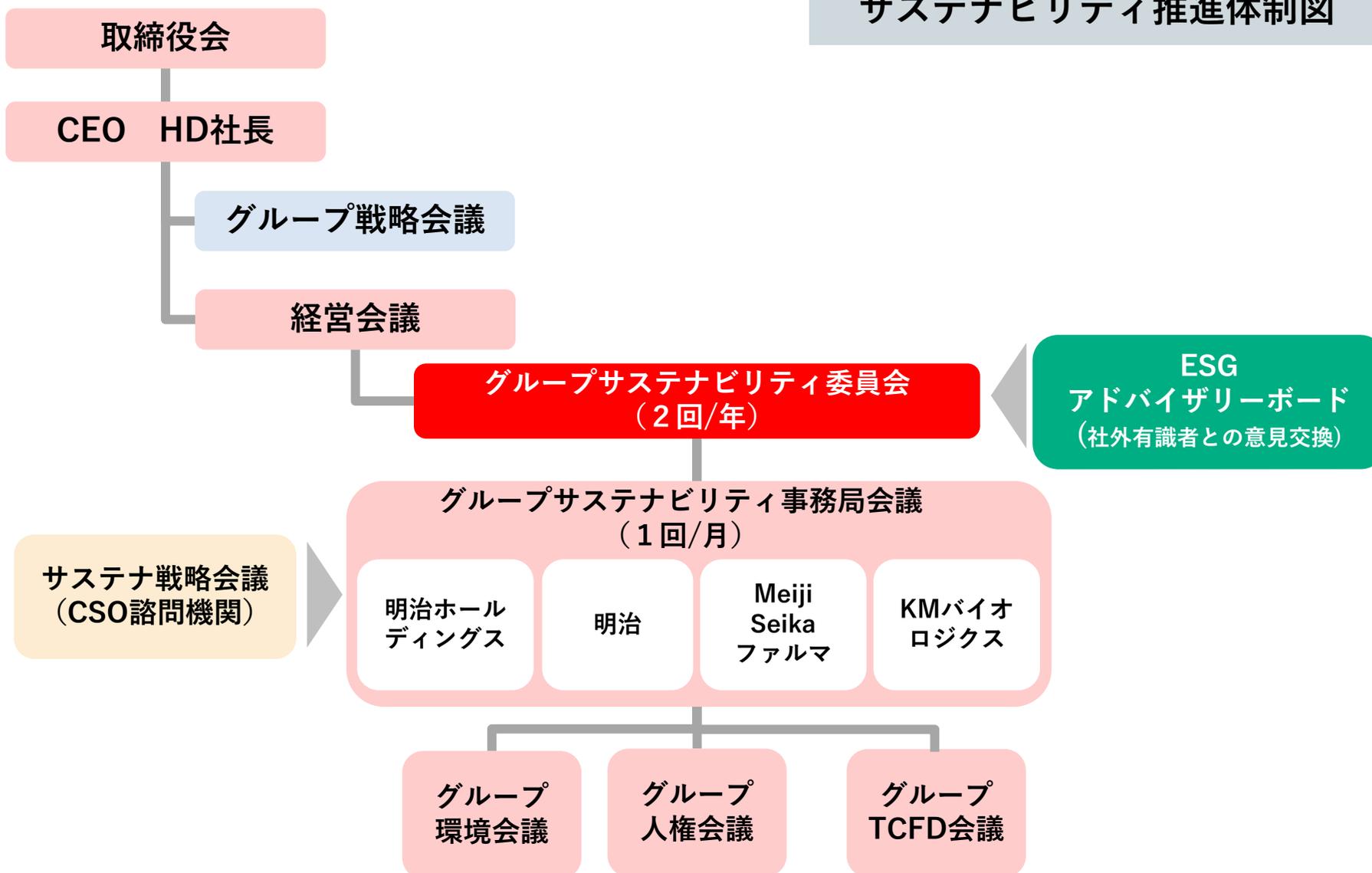
中計の方針沿って着実に縮減

株主還元

- 配当金は変更なし
- 自己株式の取得を決定 300億円

明治グループESGアドバイザーボードの設置

サステナビリティ推進体制図



明治グループESGアドバイザーボード開催

年2回開催のESGアドバイザーボードを新設
社外からの意見をさらなるサステナビリティ活動の強化につなげる

■第1回開催：2021年8月25日(水) ■メンバー：社外有識者3名+川村CEO含む明治HDメンバー5名

■議題：

- ①人権尊重の取り組み（人権デュー・ディリジェンス、サプライチェーンマネジメント）
- ②環境関係の取り組み（TCFDシナリオ分析、脱炭素社会、水資源）
- ③その他 明治グループのサステナビリティ活動全般



■明治グループの
サステナビリティ活動は、
土台創りからイノベーション
創出のステージへ

✓ サステナビリティは第5の競争軸

常にコストと利益のバランスが問われるサステナビリティにおいて、発想の転換が必要。トレードオンをいかに創りあげるか、ストーリー性をもった共感マーケティングが重要となる。

✓ カルチャーが大事 “ケア”と“リスペクト”を

人権課題はリスクをつぶすことだけでなく、全ての人々をリスペクトしプラスの価値創造に繋げていくことが重要。そのためにはトップからの強いメッセージが必要。

✓ 気候変動対策にはOpportunity戦略を

これから必要なのはOpportunity Mappingを実施しコストを企業成長へ資する方向性に転換していくこと。

明治グループ長期環境ビジョン「Meiji Green Engagement for 2050」に沿った取り組みを着実に進行

✓ 日本気候リーダーズ・パートナーシップ（JCLP）に加盟（7月）

持続的な脱炭素社会の実現を目指す企業グループ「JCLP」に加盟

✓ RE100 に加盟（9月）

使用電力を100%再生可能エネルギー由来の電力で賄うことを目指すグローバルイニシアチブ「RE100」に加盟

✓ インターナルカーボンプライシング制度を導入（10月）

CO2排出量の増減を伴う備投資などを対象に、5,000円/t-CO2の社内炭素価格を設定

✓ SBT (Science Based Targets) 認定を取得（10月）

温室効果ガス削減目標に関し、SBTイニシアチブより認定を取得

2023中期経営計画～明治ROESG®※経営の実践

ROE向上とESG強化を矛盾させることなく、
ともに実現する経営への転換を目指す



- ①MSCI
- ②DJSI
- ③FTSE4Good
- ④CDP(Climate Change)
- ⑤CDP(Water Security)

- ①健康寿命延伸
- ②たんぱく質摂取量
- ③インフルエンザワクチン接種率
- ④従業員エンゲージメントスコア
- ⑤健康志向食品、栄養付加価値型商品、超高齢化社会に貢献する商品の売上伸長率
- ⑥新型コロナウイルスワクチン・治療薬の開発成功と供給

参考資料

2021年度 上期 連結経営成績

(億円)	21年度 上期実績	前年同期比	主な内容
売上高	5,007	△14.4% △842	— (詳細はP2-4参照)
営業利益	503	△0.1% △0	— (詳細はP2-4参照)
営業外収益	35	+62.5% +13	・持分法による投資利益 (+16) ・為替差益 (△1)
営業外費用	20	+7.4% +1	・イベント関連損失 (+4) ・支払補償費 (+4) ・持分法による投資損失 (△5)
経常利益	517	+2.3% +11	—
特別利益	54	+429.9% +44	・関係会社株式売却益 (+14) ・固定資産売却益 (+14) ・投資有価証券売却益 (+13)
特別損失	19	△55.9% △25	・貸倒引当金繰入額 (△10) ・減損損失 (△5)
税金等調整前純利益	552	+17.1% +80	—
法人税等	152	△6.9% △11	—
非支配株主に 帰属する純利益	33	+63.8% +13	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	366	+27.5% +79	—

2021年度 上期 連結営業利益増減分析

(億円)	連結	食品	医薬品	他
20年度上期実績	504	439	66	△1
売上増減	+5	△39	+44	—
薬価改定の影響	△25	—	△25	—
原価の変動	△5 ※1	△10	+5	—
経費等の増減	△11 ※2	△1	△10	—
その他（子会社損益含む）	+35	+6	+32	△3
21年度上期実績	503	395	112	△5

※1： 主な内訳 【食品】 原材料コスト増△8、その他△2

【医薬品】 原価低減+5

※2： 主な内訳 【食品】 マーケティング費用等の変動+9、製造間接費増△7、その他△3

【医薬品】 マーケティング費用等の変動+1、研究開発費増△9、その他△2

2021年度 上期 連結財政状態

(億円)	21年9月末 実績	前期末比	主な内容
流動資産	4,806	+12.8% +546	・現金及び預金 (+437) ・受取手形及び売掛金 (+79)
固定資産	6,642	+3.6% +233	・建設仮勘定 (+223)
資産合計	11,449	+7.3% +779	—
流動負債	2,939	+16.2% +409	・短期借入金 (+285) ・返金負債 (+176) ・契約負債 (+121) ・未払費用 (△178)
固定負債	1,552	+0.4% +6	・社債 (+100) ・繰延税金負債 (+6) ・長期借入金 (△101)
負債合計	4,492	+10.2% +416	—
株主資本	6,235	+4.4% +262	・利益剰余金 (+242)
その他の包括利益 累計額	337	+39.8% +96	・為替換算調整勘定 (+60) ・その他有価証券評価差額金 (+21)
非支配株主持分	384	+1.3% +5	—
純資産合計	6,957	+5.5% +363	—
有利子負債	1,302	+27.9% +284	・短期借入金 (+285) ・社債 (+100) ・長期借入金 (△101)
自己資本比率	57.4%	△0.8pt	—

2021年度 上期 連結キャッシュフロー

(億円)	21年度 上期実績	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	611	+203	<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約負債の増加 (+121) ・ 棚卸資産の減少 (+80) ・ 税金等調整前四半期純利益 (+80) ・ 仕入債務の増加 (+54) ・ 法人税等の支払額 (△109)
投資キャッシュフロー	△355	+247	<ul style="list-style-type: none"> ・ 投資有価証券の取得による支出 (+320) ・ 投資有価証券の売却による収入 (+57) ・ 有形固定資産の取得による支出 (△145)
財務キャッシュフロー	146	△302	<ul style="list-style-type: none"> ・ コマーシャル・ペーパーの減少 (△500) ・ 短期借入金の純増 (+185)
フリーキャッシュフロー	255	+451	—

2021年度 連結計画

(億円)		上期実績		下期計画 (11/9修正)		通期計画 (11/9修正)	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比
連結	売上高	5,007	△14.4% △842	5,132	△15.4% △935	10,140	△14.9% △1,777
	(参考：前年同期比※)	—	+1.5% +73	—	△0.1% △4	—	+0.7% +68
	営業利益	503	△0.1% △0	496	△10.8% △59	1,000	△5.7% △60
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	366	+27.5% +79	533	+44.5% +164	900	+37.1% +243
食品	売上高	4,090	△17.6% △875	4,179	△16.9% △851	8,270	△17.3% △1,726
	(参考：前年同期比※)	—	△0.2% △6	—	+0.3% +11	—	+0.1% +4
	営業利益	395	△9.9% △43	435	△0.1% △0	830	△5.0% △43
医薬品	売上高	921	+3.3% +29	965	△7.6% △79	1,886	△2.6% △49
	(参考：前年同期比※)	—	+9.2% +77	—	△1.3% △12	—	+3.6% +65
	営業利益	112	+70.6% +46	72	△42.2% △52	185	△3.2% △6

2021年度 通期 連結営業利益増減分析

(億円)	連結	食品	医薬品	他
20年度通期実績	1,060	874	191	△5
売上増減	+53	△21	+74	—
薬価改定の影響	△50	—	△50	—
原価の変動	△24 ※1	△33	+9	—
経費等の増減	△26 ※2	+11	△37	—
その他（子会社損益含む）	△13	△1	△2	△10
21年度通期計画	1,000	830	185	△15

※1： 主な内訳 【食品】 原材料コスト増△31、その他△2

【医薬品】 原価低減+9

※2： 主な内訳 【食品】 マーケティング費用等の変動+30、製造間接費増△14、その他△5

【医薬品】 マーケティング費用等の変動△15、研究開発費増△29、その他+7

食品：2021年度 事業別計画

		(億円)		下期計画		通期計画	
		上期実績	前年同期比	(11/9修正)	前年同期比	(11/9修正)	前年同期比
ヨーグルト・チーズ	売上高	1,232	△8.2% △110	1,262	△0.2% △2	2,494	△4.3% △112
	営業利益	187	△28.6% △74	202	△5.6% △12	389	△18.2% △86
ニュートリション	売上高	629	+5.7% +33	594	+5.3% +29	1,224	+5.5% +63
	営業利益	106	+13.6% +12	77	△8.0% △6	183	+3.4% +6
チョコレート・グミ	売上高	501	+5.8% +27	707	+4.5% +30	1,208	+5.1% +58
	営業利益	37	+62.5% +14	104	+11.1% +10	142	+21.2% +24
牛乳	売上高	443	△9.5% △46	392	△11.5% △50	836	△10.4% △97
	営業利益	△0	— +6	△4	— +1	△4	— +7
業務用食品	売上高	347	+16.0% +47	384	+5.0% +18	731	+10.0% +66
	営業利益	8	+540.0% +7	22	+34.0% +5	30	+71.4% +12

食品：2021年度 事業別計画

(億円)		上期実績		下期計画 (11/9修正)		通期計画 (11/9修正)	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比
フローズン・ 調理食品	売上高	401	△5.6% △23	312	△2.6% △8	714	△4.3% △32
	営業利益	23	△28.0% △9	6	+90.8% +3	30	△16.4% △6
海外	売上高	268	+16.2% +37	287	+11.4% +29	555	+13.7% +66
	営業利益	2	△51.0% △3	5	△13.4% △0	8	△30.9% △3
その他・ 国内子会社	売上高	1,125	+1.6% +18	1,078	△5.0% △57	2,203	△1.7% △39
	営業利益	29	+10.6% +2	19	△6.2% △1	49	+3.2% +1

食品：2021年度 上期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	ヨーグルト・ チーズ	ニュートリ ション	チョコレート・ グミ	牛乳	業務用 食品	フーズン・ 調理食品	海外	その他・ 国内子会社
20年度上期 営業利益	439	261	93	23	△6	1	33	5	26
売上増減	△39	△68	+22	+17	△17	+18	△12	+2	△2
原価の変動	△10	△2	△2	△4	△0	+1	△4	△1	+2
経費等の増減	△1	+1	△7	△7	+24	△11	+8	△7	△2
マーケティング費用 等の変動	+9	△1	△5	+1	+18	△10	+6	+1	+0
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△10 (+1)	+2	△2	△8	+7	△1	+2	△8	△2
その他 (子会社損益など)	+6	△6	+0	+9	△1	△0	△2	+3	+4
21年度上期 営業利益	395	187	106	37	△0	8	23	2	29

食品：2021年度 通期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	ヨーグルト・ チーズ	ニュートリ ション	チョコレート・ グミ	牛乳	業務用 食品	フーズン・ 調理食品	海外	その他・ 国内子会社
20年度 通期営業利益	874	476	177	117	△12	17	36	12	48
売上増減	△21	△86	+43	+40	△31	+28	△15	+4	△4
原価の変動	△33	△5	△14	△10	△0	△0	△5	△1	+2
経費等の増減	+11	+10	△24	△10	+43	△14	+14	△10	+1
マーケティング費用 等の変動	+30	+10	△8	△4	+31	△14	+11	+2	+3
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△20 (△8)	+1	△16	△5	+12	△1	+4	△12	△2
その他 (子会社損益など)	△1	△6	+0	+4	△4	△0	△1	+3	+3
21年度 通期営業利益	830	389	183	142	△4	30	30	8	49

食品：2021年度 主力品の売上動向

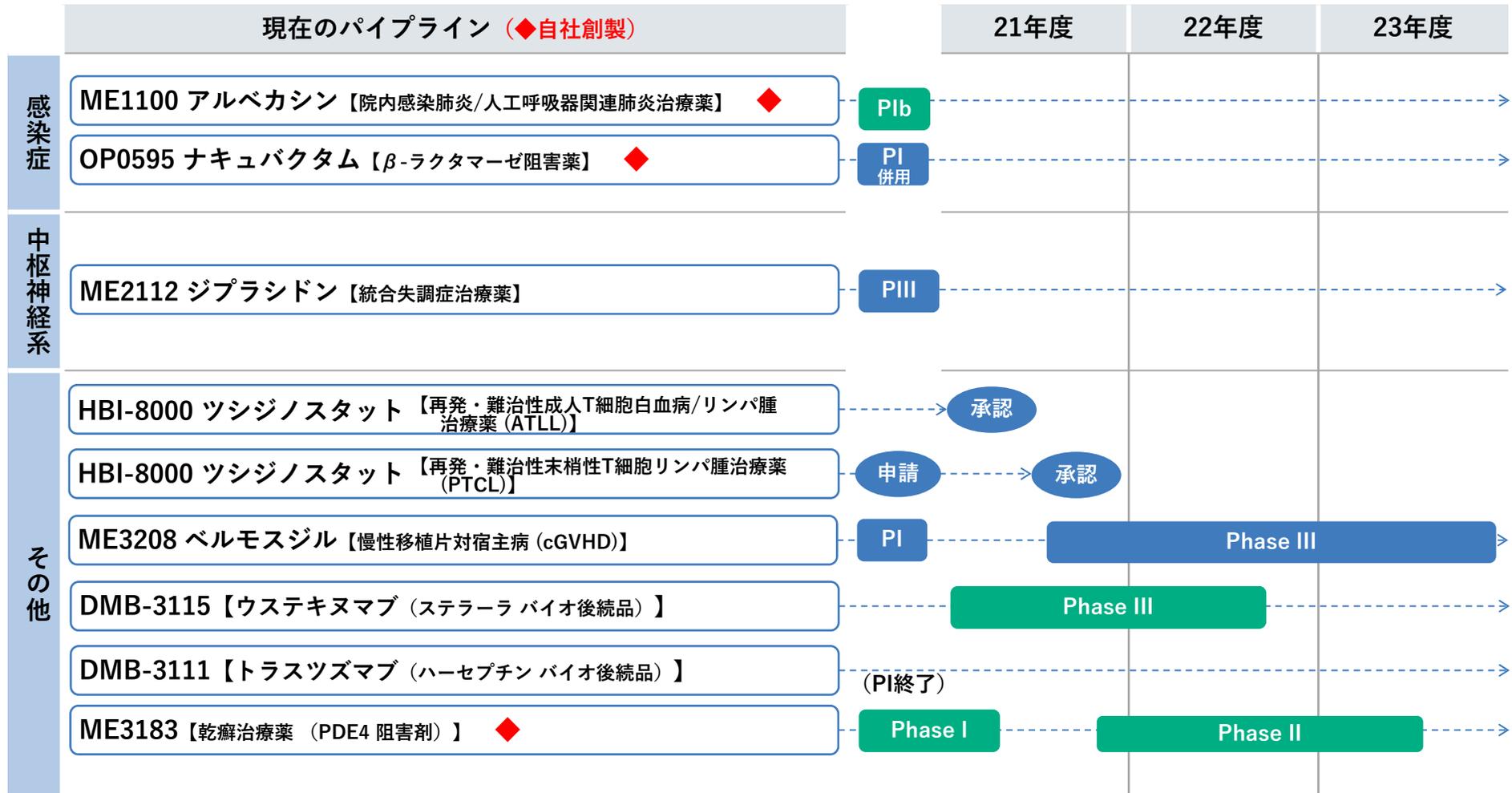
(億円)	20年度 上期実績	21年度 上期実績	21年度		21年度 通期計画 (11/9修正)
			前年同期比	計画比	
ヨーグルト	444	424	△4.4%	△0.7%	838
プロバイオティクス ヨーグルト	565	495	△12.4%	△10.2%	1,024
市販チーズ	153	148	△3.8%	△3.0%	299
チョコレート	382	395	+3.5%	△3.0%	992
乳幼児ミルク・流動食	300	308	+2.8%	+2.9%	616
スポーツ栄養 (ザバスミルク含む)	208	233	+12.1%	△5.9%	443
市販・宅配牛乳	452	404	△10.7%	△0.9%	768
市販アイスクリーム	266	247	△7.0%	△2.1%	393

医薬品：2021年度 事業別計画

		(億円)					
		上期実績	前年同期比	下期計画 (11/9修正)	前年同期比	通期計画 (11/9修正)	前年同期比
国内医薬品	売上高	452	+9.6% +39	527	+5.3% +26	980	+7.2% +66
	営業利益	17	— +21	34	△42.8% △25	52	△7.1% △4
海外医薬品	売上高	194	△2.2% △4	225	+15.6% +30	420	+6.6% +26
	営業利益	12	△43.7% △9	24	+53.9% +8	37	△2.6% △1
ヒト用ワクチン	売上高	240	+15.6% +32	196	△21.7% △54	437	△4.8% △22
	営業利益	86	+70.2% +35	15	△66.9% △30	102	+5.2% +5
農薬・動物薬	売上高	79	+11.3% +8	76	△21.5% △21	156	△7.7% △13
	営業利益	△4	— △1	△1	— △4	△6	— △6

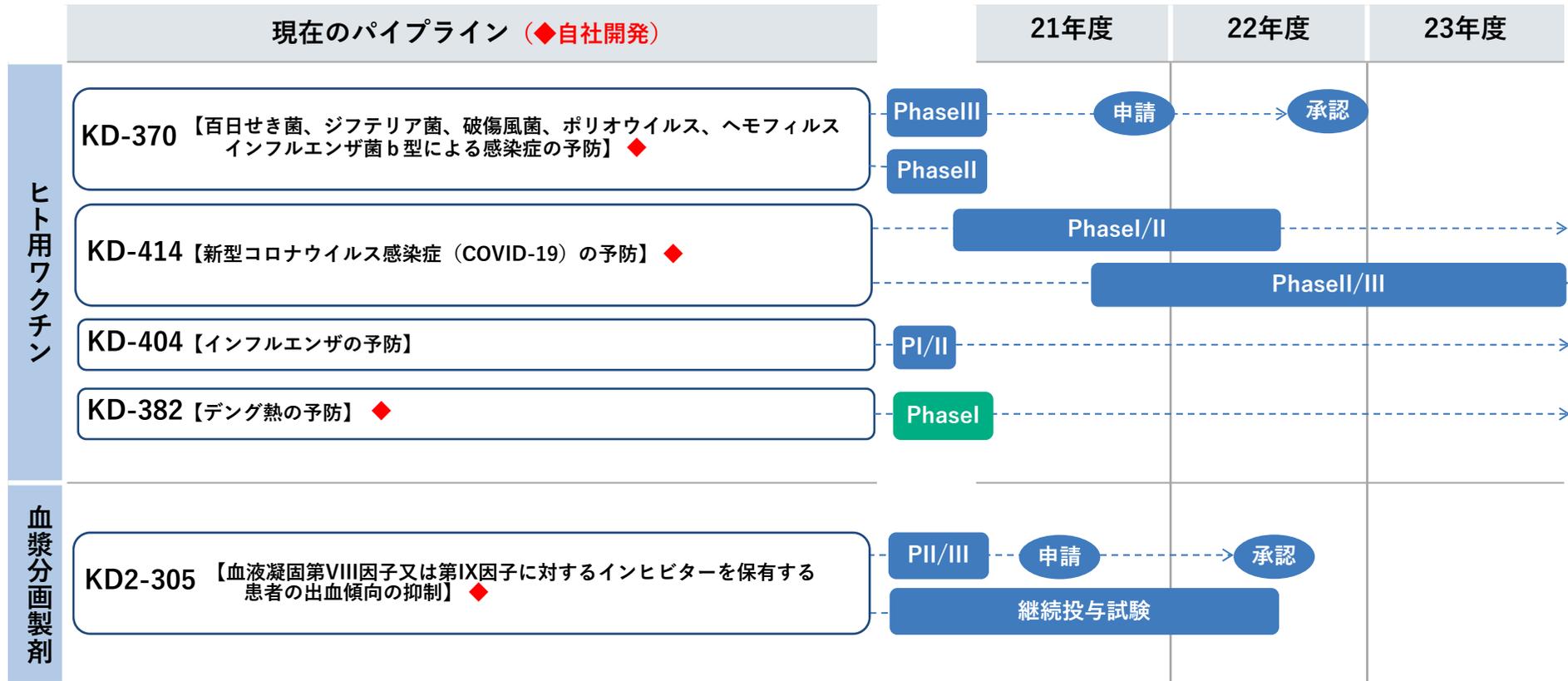
医薬品：開発パイプライン

■ 日本 ■ 海外



医薬品：開発パイプライン

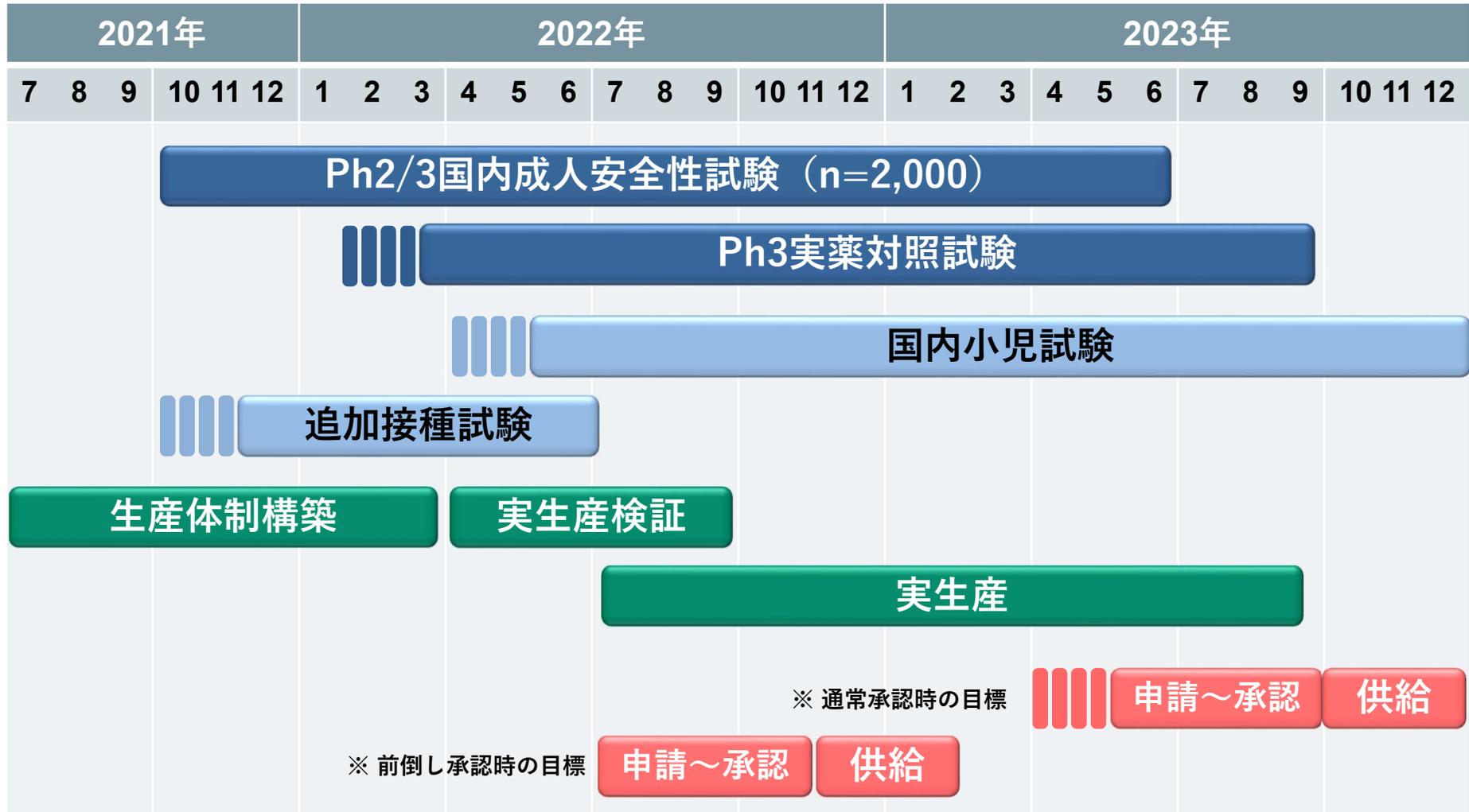
■ 日本 ■ 海外



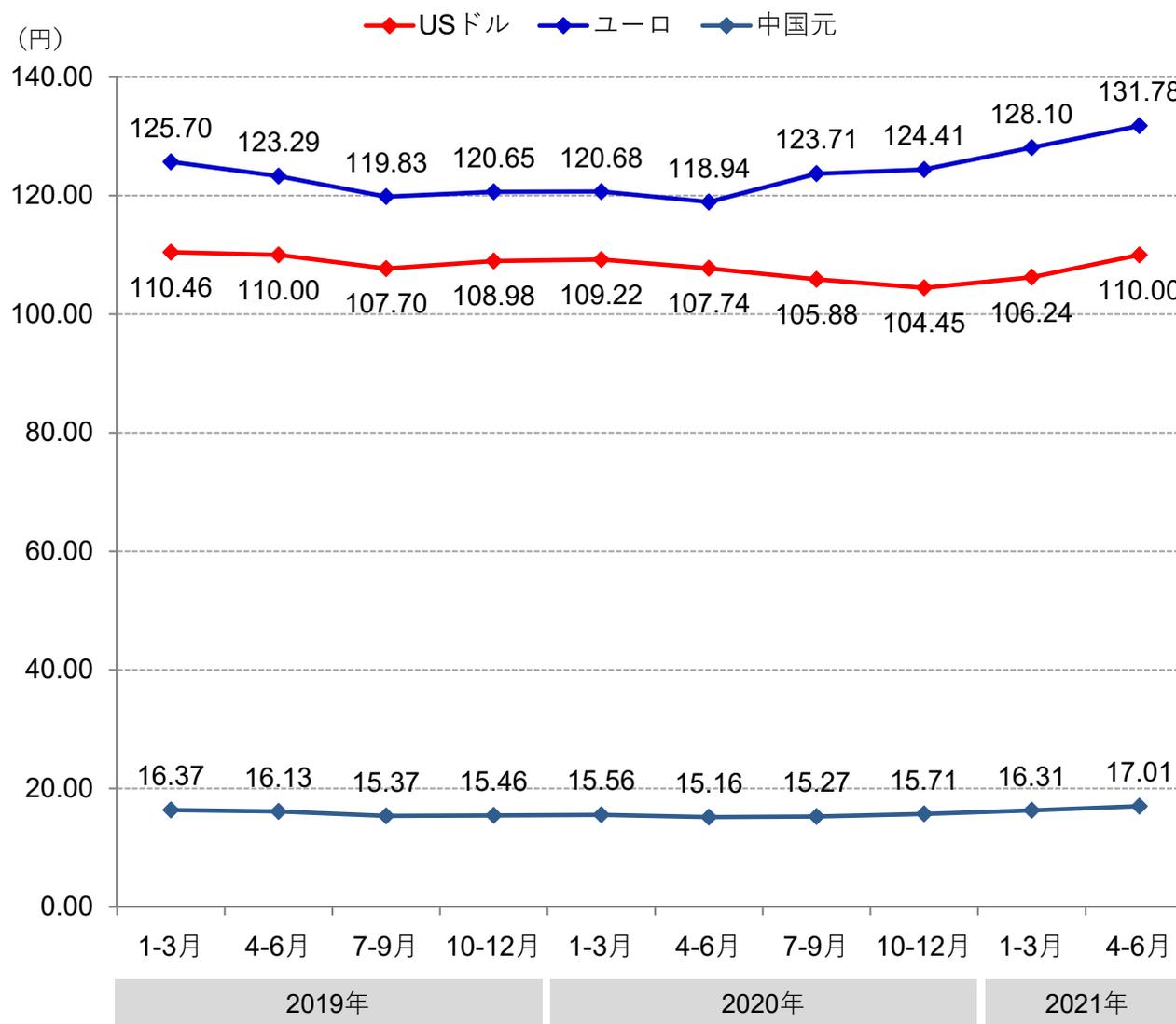
医薬品：開発パイプライン

現在のパイプライン (◆自社創製)		21年度	22年度	23年度
農薬	ME5382 【殺虫剤/Flupyrimin】 ◆	登録	登録	
	ME5343 【殺虫剤/Afidopyropene】 BASF社と共同開発 ◆ <small>(Meiji Seikaファルマと北里研究所との共同研究で発見)</small>	登録		
	ANM-138 【殺虫剤/Flometoquin】 日本化薬と共同開発 ◆	登録		
	ME5223 【殺菌剤/Fenpicoxamid】 Corteva Agriscience社と共同開発 ◆	登録		
動物薬	ME4136 【抗菌性注射剤】	承認		
	ME4137 【抗菌性注射剤】	申請	承認	
	ME4406 【飼料添加物】 ◆			申請
	ME4204 適応拡大【経口駆虫剤】 ◆	承認		
	ME4618 【麻酔注射剤】	申請	承認	
	ME4624 【ワクチン】	承認		
	KD-395 【豚用ワクチン】 ◆	申請		承認
	KD-386 【豚用ワクチン】 ◆	申請		承認

医薬品：KD-414（COVID-19不活化ワクチン）の開発スケジュール



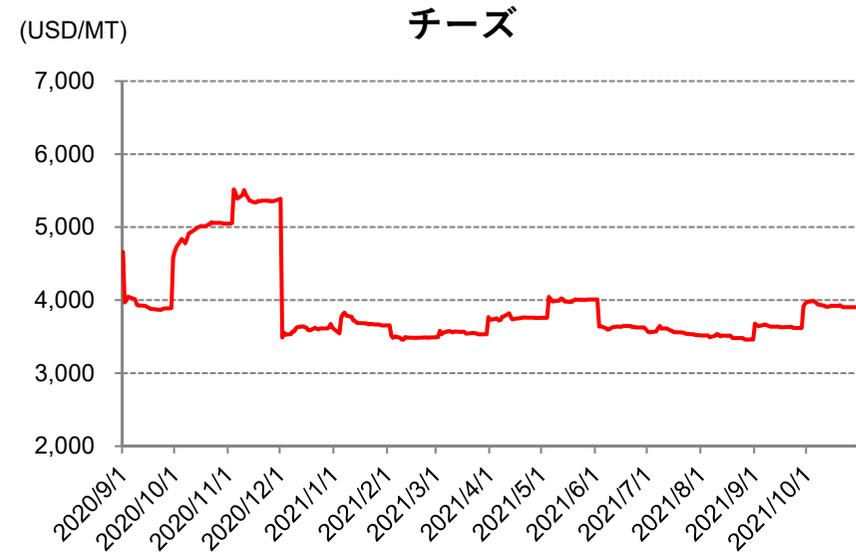
主要通貨と当社平均レート



21年度計画の為替前提

U S ドル	106円
ユーロ	126円
中国元	15円

主要輸入原料相場の動向



明治ROESG®：ESG指標

総合評価としてのMSCI ESG Ratings・DJSI・FTSE4Goodと、環境にフォーカスしたCDPのレーティングを組み合わせ設定

評価指標	20年度	23中計目標
MSCI ESG Ratings	BB	A
DJSI	80% (52点)	90% (75点)
FTSE4Good	3.0点	3.5点
CDP (Climate Change)	A-	A
CDP (Water Security)	A-	A

- MSCI、DJSI、FTSEは、ESGへの取り組みにもグローバルな視座が必要であるとの判断から選択
- 中でもMSCIとFTSEは開示情報のみから評価されるため、情報発信のレベルアップにもつながる
- 環境課題への取り組みの重要性はますます高まる中で、より貢献度を高めていくためにCDPの2指標を採用

明治ROESG[®]：明治らしさ目標

2023中計で注力する領域と重なる社会課題と、企業活動を支える「人」の観点で6つを選択

項目	目標
健康寿命延伸	+ 1年（16年比）※1
たんぱく質摂取量	75g/1日
インフルエンザワクチン接種率	接種率 60%
従業員エンゲージメントスコア	偏差値A ※2
健康志向食品、栄養付加価値化型商品、超高齢化社会に貢献する商品の売上伸長率	+10%以上（20年度比）
新型コロナウイルスワクチン・治療薬の開発成功と供給	開発と供給

- 当社が2023中計で注力するのは強みを持つ分野であり、短期的にも企業価値がプラスになる可能性がある。つまり、利益成長とサステナビリティの同時実現が可能
- 「従業員エンゲージメント」は、事業においてもESGにおいても、その原動力は「人」という考え方から選択

健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。